

補聴器と人工内耳

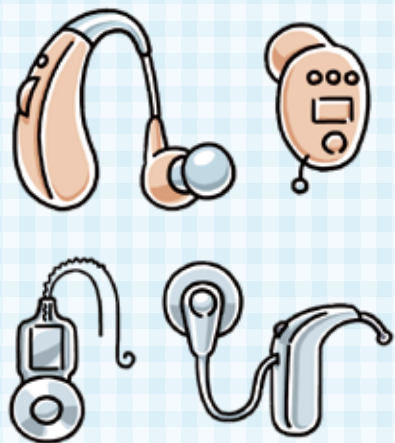
適切な難聴の治療を受けても、聴力がもとどおりにならないことがあります。また、老人性難聴のように加齢に伴い難聴が進行する場合や、原因不明の難聴もあります。これらの場合、補聴器や人工内耳を使って難聴をある程度克服することができます。

●補聴器とは

音を電氣的に増幅して耳に送り込む機器です。ふつう40～90dBぐらいの、軽度から高度難聴の方に用いられます。

●人工内耳とは

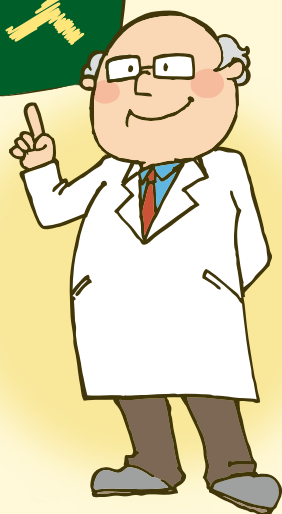
70～100dB程度の高度～重度難聴の方に用いられます。内耳の障害が重度になると、いくら補聴器で大きな音を送っても内耳で音を電気信号に変換することができなくなります。人工内耳は、聴神経に直接電気信号を送り込む機器です。



知っておきたいトピックス

補聴器はどこで買ったらいいの？

通信販売や訪問販売、取扱店などで直接購入することは、おすすめできません。難聴の原因はさまざまですから、まず耳鼻咽喉科医（補聴器相談医）の診察を受けたうえで、認定補聴器技能者が常駐し、補聴器販売店協会に登録している認定補聴器専門店で購入してください。耳鼻咽喉科を受診した際、補聴器を希望すれば、購入に適した認定補聴器専門店を教えてください。



みんなのけんこう

一般社団法人 長野県医師会 長野市大字三輪1316番地9 TEL.026-219-3600 <http://www.nagano.med.or.jp/>

vol.77

平成30年8月発行

原因によって症状が違う 正しく「難聴」を知ろう

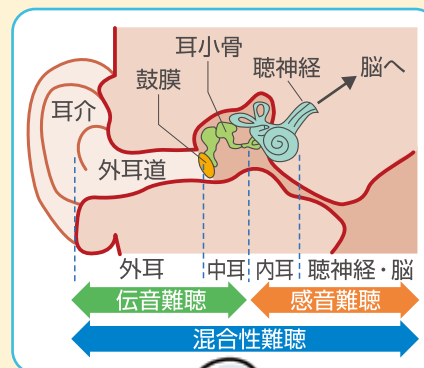
ひとくちに「難聴」といっても、程度に差があり、また高い音が聞こえにくい、あるいは低い音が聞こえにくいなど、症状はさまざまです。聞こえが悪くなるだけでなく、耳鳴りやめまいを伴うこともあります。まずは耳鼻咽喉科を受診し、原因を明らかにすることが重要です。



聞こえる仕組みと難聴の種類

音は空気の振動です。耳から入った音は、外耳・中耳・内耳を通して脳に伝えられ、音として認識されます。

- 外耳** 耳の穴のトンネルです。外耳道の突き当りに鼓膜があります。
- 中耳** 鼓膜の振動が、耳小骨（ツチ骨・キヌタ骨・アブミ骨）を介して内耳に伝えられます。
- 内耳** 蝸牛（かぎゅう）には音を感じる細胞が収められています。この細胞（有毛細胞）が振動を電気信号に変え、大脳に伝えます。



難聴は、障害の場所によって、大きく二つに分けられます。

- 伝音難聴** 音を伝える部分（外耳や中耳）に障害がある。
- 感音難聴** 音を感じる部分（内耳や聴神経）に障害がある。

この両方の障害が合わさった【混合性難聴】もあります。



美味しく手軽に栄養プリン

ソフトカップ

1カップ 75g

- 1カップでエネルギー120kcal、たんぱく質5gが摂取できます。
- プロテインスコアの高い牛乳と卵を使った栄養プリンです。
- ビタミン(7種)とミネラル(6種)が摂取できます。
- 噛む力の弱い方でも召し上がっていただけます。

プレーン

アーモンド味

黒糖味

マンゴー味(無糖)

バナナ味(無糖)

チーズ味

キッセイ 薬品工業株式会社 ヘルスケア事業部
 〒399-0711 長野県塩尻市片丘9637番地6 お客様相談センター ☎ 0120-113-513 (土・日・祝日を除く9:00～17:00)

難聴の原因と治療

「伝音難聴」と「感音難聴」で原因や治療法が異なります。



伝音難聴

病 気

急性中耳炎

風邪を引いたときなど、中耳が炎症を起こし、膿がたまります。鼓膜が破れて膿（耳だれ）が出ることがあります。

慢性中耳炎（鼓膜穿孔や耳漏）

鼓膜に穴が開いた状態が続き、中耳で炎症を繰り返し耳だれが出ます。

滲出性中耳炎

中耳に水がたまり鼓膜や耳小骨の動きを邪魔します。急性中耳炎から移行するケースが多く、慢性副鼻腔炎やアレルギー性鼻炎などがあると、治りにくくなります。

真珠腫性中耳炎

中耳に鼓膜が入り込み、難聴が起こります。先天性のものと後天性のものがあり、手術が必要です。

耳垢栓塞

外耳道が耳垢でいっぱいになり、音が鼓膜に届かない状態です。耳鼻咽喉科で取り除く必要があります。

外耳道炎

耳の穴の炎症です。耳の穴の掃除で傷めたり、乱暴に耳垢をとると起こることがあります。

外耳道異物

耳の穴に昆虫が紛れ込んだり、幼児などがビーズや玩具の鉄砲の玉などを入れてしまった場合で、耳鼻咽喉科で取り除く必要があります。

外耳道での腫瘍性病変

外耳道に腫瘍ができて音が鼓膜まで届かなくなる病変で、腫瘍は良性から悪性までさまざまです。

耳硬化症

耳小骨の一つ、アブミ骨が動かなくなり、鼓膜の動きが内耳に伝わりません。中年以降の女性に多い疾病です。

耳小骨離断

事故などで耳小骨の関節部が外れたり、先天的にその連結ができていない場合があります。手術で耳小骨の連結を再建します。

治療法

伝音難聴では外耳や中耳に障害があります。炎症が起きている場合は抗生物質を使ったり、膿を出したりして、その原因を取り除きます。手術により病変を取り除く場合もあります。

■まず正しい聴力を測りましょう

聴力を調べるさまざまな聴力検査のほか、CT（X線を使って身体の断面を撮影する検査）やMRI（電波を使って断面を撮影する検査）などを用いた検査が行われます。最近では、遺伝子が原因の難聴もわかってきましたので、遺伝子検査をする場合もあります。



感音難聴

病 気

突発性難聴

ある日突然耳の聞こえが悪くなります。原因はまだはっきりしていません。早期の治療が重要です。

メニエール病

めまいと耳鳴りが難聴を伴って繰り返します。内耳のリンパ液のバランスが原因といわれています。

老人性難聴

加齢とともに高い音が聞こえにくくなります。80歳以上の高齢者では、約半数にこの難聴があるといわれています。



遺伝性の感音難聴

先天性難聴、あるいは小児期発症の難聴の半分以上は遺伝子が関係しているといわれています。先天性難聴の遺伝子診断が保険診療として認められており、医療機関で診断できます。

薬剤性難聴

（ある種の抗生物質や抗がん剤）

薬の副作用により、聞こえが悪くなる場合があります。遺伝子変異が関係している場合があり、そのような体質がわかっている場合は、その薬の使用を避けることで難聴を予防することができます。

騒音性難聴・音響外傷

大きな騒音の工場や工事現場に長期間従事していた人に多いのが騒音性難聴、爆発や破裂音などが難聴を引き起こすのが音響外傷です。

聴神経腫瘍

聴神経に腫瘍がまれに見つかる場合があります。

治療法

急性の感音難聴は薬で治療します。急性の場合は、早期に治療を開始するほど治りやすいことがわかっています。早めに耳鼻咽喉科を受診しましょう。慢性の場合は、補聴器や人工内耳が用いられます。